



地球はブレイン・ヨーグルト／梶尾真治
早川書房（文庫・5/31刊
・¥320）

遅れてきた新人、梶尾真治の、待望久しい
第一作品集である。著者は、既に十年前、ブ
ロ雑誌にデビューしている。それ以来の、長
い沈黙を破って、最近ようやく活動を再開し
た。二十年にわたるファン歴もあり、SFの
「渋い風味」が、その作品からは感じとれる。
有名な短編SF「冷たい方程式」のパロデ
イ、「フランケンシュタインの方程式」。ある
男の下半身だけが、未来に送られてしまう、
「時空連続下半身」。ウエルズ『宇宙戦争』の
日本版、「清太郎出初式」。時間飛行士として
旅立った男と、残された女を、情感を込めて
描く、デビュー作「美亜に贈る真珠」――な
ど、計七短編。

中でも圧巻は、味、覚をコミュニケーション
の手段にする、宇宙人との接触を描いた、表
題作だろう。異星人が粘膜に分泌する「味」
をめぐる、巻き起こるドタバタ――だが、
その結末はほろ苦い。日常的な（コミカルな）
語り口ではじまり、現実を超えた超日常で、
一挙に視野を広げ、そして終わる。今では少
なくなっただが、本来なら、短編SFはこうで
なくてはいけない。著者の作品には、SF特
有の「味」が随所に見られるようだ。（俊）